

第1回原野谷学園新たな学園づくり地域検討委員会 概要

日 時	平成29年12月11日（月） 19:00 ～ 20:40
場 所	原野谷中学校図書室
出 席	<p>委 員 山崎保寿（委員長）、久米正雄（副委員長）、草賀章吉、野口安男、竹下文博、両角一夫、山田珠一（欠席）、山本安幸、深田裕子、鈴木麻美、杉山喜啓、鈴木映美、天野唯、古山保味、山本千恵、佐藤收一、阪本敦宏、山田卓、深澤大、村松恵子</p> <p>事務局 教育長 山田文子、教育部長 笹本厚、企画政策課長 平松克純 学務課長 中山弘一、学校教育課長 杉浦雅美、 学校教育課主任指導主事 高塚秀和、 教育政策室長 増田忍、教育政策室係長 鈴木純一、 教育政策室主任 石山尚哲、教育政策室指導主事 横井和好</p>
内 容	
<p>1 開 会</p> <p>2 教育長あいさつ</p> <p>3 委員委嘱等</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 委員会規程について</p> <p style="margin-left: 20px;">(2) 委員長、副委員長の指名</p> <p style="margin-left: 20px;">(3) 自己紹介、事務局紹介</p> <p style="margin-left: 20px;">＜山崎委員長より＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市部を含めて、学校規模や学区の見直しが全国的に行われている。 ・原野谷学園もよりよい学園の在り方を目指して、進めていきたい。 <p>4 協議事項</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 掛川市が目指す小中一貫教育について</p> <p style="margin-left: 40px;">ア 掛川市の教育</p> <p style="margin-left: 40px;">イ 小中一貫教育が求められる背景</p> <p style="margin-left: 40px;">ウ 掛川市が目指す小中一貫教育</p> <p style="margin-left: 40px;">エ 全国の状況</p> <p style="margin-left: 40px;">オ これからに向けて</p> <p style="margin-left: 20px;">(2) 会の目的等について</p> <p style="margin-left: 40px;">※上記を中心に、説明資料やプレゼン画面等を用いて、事務局より説明した。</p> <p style="margin-left: 20px;">(3) 意見交換</p> <p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掛川市では、学園化構想で保幼小中の一貫型の教育を進めてきている。 ・これまでは連携で学園化を進めてきているが、現在第2ステージへと進み、より緊密な連携や学校規模の見直し、人口減少等を踏まえ、原野谷学園においてどのような学校が必要か。そのあたりを視野に入れて御意見をいただきたい。 <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原谷小学校は、4年生以外が単学級。全てではないが、学園化を通して小学校同士一緒に活動をする授業を進めている。市内陸上大会での練習も小学校同士と一緒に練習をした。連携により小学生同士と一緒にやる活動の良さがあった。 <p>【委員】</p>	

- ・6年生が中学生と一緒にいった授業では、中学生が小学生にわかりやすく教えてくれていた。すごく効果的であった。
- ・以前視察に行った一体型の学校は、小中学生と一緒に学校生活を送っているので中1ギャップが無いと聞いている。
- ・原田小は本年度児童数は76人。この後、毎年減っていく。今の3歳児は3人。2年生になるときは複式学級になる予定である。

【委員】

- ・現在、原野谷中学校の英語の教員2人がそれぞれ小学校へ毎週行き、5・6年生の外国語活動の手伝いをしている。
- ・美術の授業について、原田小学校の児童が原野谷中で「ベニヤ人」の授業を行った。原谷小については、美術の教員が原谷小へ行き、美術の授業を行った。
- ・中学生の人数は30年前は300人を超えていた。今は117人。ぎりぎり2学級である。今年の1年生は35人で1学級。
- ・素晴らしい校舎と素晴らしい教育をすることにより、子どもが増えると思う。
- ・原野谷中学校の校舎は昭和36年にできた。この校舎の建て替えて、日本一の校舎を造り、その学校に通いたいという人を増やしたい。
- ・昨年度、原野谷中学校に特別支援学級が開設した。特別支援学級開設によって、原谷小から原野谷中へ進学し、特別支援教育を受けることは大きな前進であり、学園で育てていけることは大切なことである。
- ・原野谷学園の未来を考えていけるようにしたい。未来の楽しい学校づくりが実現するようにしたい。

【委員】

- ・規程の2条に「かけがわ型小中一貫教育の在り方」とあるが、掛川の教育の目指す姿とは何か。また、かけがわ型とはどういうものか、簡単に説明できればわかりやすい。

【事務局】

- ・学園化構想を生かした小中一貫教育がかけがわ型であり、各学園が地域とともに目指す子ども像を設定共有するところがかけがわ型であるとする。地域総ぐるみで市民総ぐるみの上に、一貫教育が行われているということである。

【委員】

- ・地域も含めて教育を行うことが主となってくるということか。

【委員長】

- ・磐田市では、学府という言い方で幼稚園も含めた一貫型の教育。横浜市も小中一貫教育を先駆けて行っている。義務教育学校という形は全国で48校あり、そこでは小中一貫教育が行われている。掛川の地域で行われている学校だからかけがわ型であり、「かけがわ道徳」や「偉人ものがたり」などの掛川独自の教材もある。

【委員】

- ・かけがわ型小中一貫教育は、地域の人たちと一緒にやっていくという考え方で良いか。

【委員長】

- ・各学園で学園化構想の協議会があるが、地域の意見が非常に届きやすくなっているため、地域の人たちと一緒に取り組んでいくという考え方でよい。

【委員】

- ・「あんり」では年長児が90人。卒園後6校の小学校に分かれていく。これまでは原谷小と原田小に分かれ、中学になると一緒になる。
- ・小学校へ上がったときに、成長する中で精神的にも多感な時に、単学級が9年間続くことを考えると、子どもたちの人間関係がどうか不安がある。
- ・園では年ごとクラス替えがあるので、子どもの実態に応じた成長段階の中で学級編制ができるが、小学校では、そのクラス替えがない分、教員の手厚い教育、支援を考えた上で小中一貫を進めていただきたい。

【委員長】

- ・小学校で分かれたとき、どうしても単学級であり、人間関係のことが心配されるため配慮をする必要がある。

【委員】

- ・本日の会合の目的を考えると、委員会委員は責任の重い立場である。
- ・現在の原野谷学園は原田地区・原谷地区の基盤の上に成り立ち、小中一貫教育を進めていく中での新たな学園づくりと受け止めている。
- ・今までの原田地区、原谷地区という両地区の意見や発想の上でなく、同じ原野谷地区全体として、大きな地域の上に立つての学園づくりが肝要であると考え。
- ・原野谷中学校はすでに地域全体の1つの学校である。原谷小、原田小は1つの地域の中での発想が意見交換の中で必要であると感じた。
- ・最終的には、本委員会において、新たな学園づくりが現実味を帯びた夢のある、この地域らしい学校・学園づくりが進められていったら良いと思う。

【委員長】

- ・原野谷地区全体というポイントが必要である。

【委員】

- ・今回は、第1回の会合であり、地域には、地域意見交換会で初めて伝えるということであるが、今日の話し合いの内容を、区長会の中で出していきたいと思う。
- ・地域の人がどれだけ小中一貫教育が進んでいるかわかっていない。この資料を基に話して理解を促していきたい。

【委員長】

- ・地域に理解を広めながら進めていくことが重要である。

【委員】

- ・このようなことをしましたということは地域に伝えていきたい。学園でも伝えて連携したい。

【委員】

- ・地元において、「あんり」が一体化になっている分、原谷と原田の子たちは友達関係にある。小学校も中学校も一緒にいた方が良く個人的に思っている。
- ・今「あんり」は、保育園と幼稚園が一緒のクラスになっている。これまでは分かっていたが、クラスが1つになって一緒に育つ環境になった。
- ・「あんり」に通っている子どもを1年半見てきて、保育園児が幼稚園児とすごく関わっていることを感じる。これまで、保育園は保育園の環境の中でしか育っていなかったため、同じ園にいても、遊ぶことも知り合いになることもなかったが、「一緒の小学校に行くんだね」ということなどから、仲間を増やすことができた。ありがたいことである。
- ・上の子はその当時保育園と幼稚園が分かれており、同じ園から小学校へ入学した際、1人だけ保育園卒園だと、転校生のような感じとなった。幼稚園卒園と保育園卒園で違っており、なかなか仲間が作れない。
- ・6年間単学級で生活すると、どうしても子どもが萎縮し、我慢するという難しい問題にぶつかることがあった。できる限り原谷小と原田小が連携し、会える機会をつくってほしい。幼稚園と保育園が一緒になったことで友達が増えるということはすごく良かったと思う。

【委員長】

- ・実態をつかんだ上で進めていくことが大切である。
- ・4つの点があったのでまとめる。
1つ目は、児童数の減少は非常に深刻であり、2～3年後はさらに難しい状況が起こり得ること。2つ目は、原野谷地区全体として考えていくことが大切であり、幼児教育との接続、そして小学校が分かれている現状を何とかできないかということ。3つ目は、特に中1ギャップの減少解消など、小中一貫教育にした場合、現在行われている中でもかなり効果があること。4つ目は、今後目指すならば、静岡のモデルとなるような、そして子どもにとって有意義な学校となるような学校の形態を望むということ。
- ・事務局へは「義務教育学校と小中一貫学校」の違いをわかりやすく示してほしい。そういった資料を用意してほしい。

以上で協議を終了する。

5 連絡事項について

(1) 第2回委員会の内容について

各学校での小中一貫教育の研究状況について説明をする予定。
日程は決定次第連絡する。

(2) 地域意見交換会について

平成30年1月17日（水）午後7時から、会場は原谷小多目的室。

(3) 写真撮影について

6 閉 会